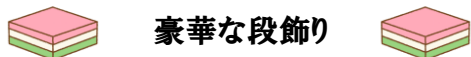


今年の「おひなさま」では、初めて段飾りを5組展示しました。時間のかかる準備の中で、雛壇に並べられた人形や道具類は、古墳に飾られたハニワと「似ているなー」と感じました。時代や意味が異なるものですが、ちょっとした共通点を探しながら展示を見るのも面白いかもしれません。



雛人形は、春の季節感や子どもの成長を願う気持ちを感じ取ることができるだけでなく、時代の変化が表れています。特に、昭和30年代から40年代にかけての高度経済成長の暮らしの変化は、雛人形にも見ることができます。春の訪れとともに、昭和の移り変わりを感じていただければと思います。



豪華な段飾り

段飾りの雛人形は、男雛と女雛を一番上に飾り、官女、五人囃子、随臣、仕丁の15体に加え、雛道具をそろえた豪華な雛人形です。こうした段飾りは江戸時代中期からとされますが、段飾りが1セットとして初節句に贈られるようになったのは、昭和30年代から40年代にかけての高度経済成長期です。1セットとしてパッケージ化された段飾りは、高度経済成長期の好景気の中で豪華さが好まれ、多くの家庭に飾られました。

資料展
収蔵

おひなさま

昭和の雛人形の世界



きらびやかな御殿飾り



御殿飾りは、京都御所の紫宸殿を模倣し、大正時代から昭和30年代まで流行した雛人形です。昭和30年頃の御殿飾りは大きく重層的となり、高度経済成長を背景とした雛人形の移り変わりを見ることが出来ます。昭和初期から戦前の御殿飾りも見どころです。



雛人形から見える時代



昭和期は豪華な段飾りが好まれましたが、段飾りは広い場所を必要とすること、飾る作業の苦勞が難点でした。核家族や団地といった家族構成や居住形態の変化の中で、手間のかからないガラスケース入りの雛人形や、可愛い小さい雛人形も好まれました。

伊勢崎市赤堀歴史民俗資料館

休館日：月曜日（月曜日が祝日は翌日）・年末年始・臨時休館日 開館時間：午前9時～午後5時（入館は4時30分）

お問い合わせ 群馬県伊勢崎市西久保町二丁目98

電話 0270-63-0030

FAX0270-63-0087

E-mail : siryokan@city.isesaki.lg.jp

入館無料